

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熟

正月前に、屋敷内や道、または神社に山や川の砂をまくことがある。三宅町但馬では、オオツゴモリ（大晦日）に戸主が近くの曾我川からラフゴで砂を持ち帰り、神社に立ち寄って境内各社の門松を立てる所にこの砂を少しずつ置き、残りを家の前の道に線を引くようにまいた。これを「砂まき」といふ。「道しるべ」といった。集落内の道が舗装されるまで行われていたといふ。

生駒市高山町傍示では、山砂を取ってきて、大晦日から元旦にかけて、家のカドいっぱいに砂で円を描いた。広ければ二つも三つも描いたと

いう。外の道には20~30センチの幅で、階段状に線を引いた。これは済めの砂だといふ。民家だけではなく、神社やお寺でもした。1970年前後までしたという。

90年の大晦日には、奈良市七条町の松田家で実際にその様子を見学させていただいた。秋篠川から砂を探り、夕方スコップで線を描くようにまく。道から門屋へ、さらには母屋へとまき、途中枝分かれして、離れや倉の入り口へも引く。倉の近くには、1本四方くらい挿す棒だといふ。正月さ

四條畷市上田原の杉本家の庭絵(筆者提供)



## 正月を迎える砂の絵

の四角を描き、対角線を1本引く。これは枠と枠の間に渡ってくべだといふ。家中で「どんどん火をたいて、

ぬくうぬくうせんと正月つあん、きやはらんでえ」と姑によく言われたと婦人は語っていた。昨年末には、生駒市の北部に接する大阪府四條畷市上田原へ出かけて「庭絵」を拝見した。田原地区は、北田原と南田原が生駒市で、上田原と下田原が四條畷市である。上田原の杉本重治家に大晦日の午後伺うと、門長屋と米倉、母屋とコヤに囲まれたカドに、放射状に光が八方に伸びた。太陽と円形の月、さらに

「万石」と書いた一斗枡がすでに描かれていた。昔は土取場があり、ここで採取して竹で編んだムリカゴをオーコ(天秤棒)で担いできたといふ。杉本家では桶状の一斗枡の姿を描いているが、四角い一斗枡を描く人もある。福の入ってくる道しるべだといふ。家中で「どんどん火をたいて、